

カイシャからシャカイに帰っていく 第1次ベビーブーム世代

1947(S22)年~49(S24)年生まれは、約689万人にも達し、総人口の5%強といわれる。学校はプレハブ校舎を増設し、大学では学生運動を展開して、過去の価値観を否定し、新しい流れを作ってきた。今思えば、この世代が就職するときに高度成長期だったのは本当に幸運だったかもしれない。そしてこの世代の労働者が3~5年後に順次60歳定年を迎える。この巨大なヤングシニア層はいったいどう行動し、社会と関わっていくのだろうか。

何らかの形で仕事を続ける人も多し、悠悠自適で趣味に生き、人生を楽しむ人たちもいるだろう。市民活動、NPOに参加していきたいという人も当然少なくないはずだ。この世代の能力、経験を社会に生かしていく上でも、人生を豊かにしていく上でも、大きい意味がある。そうした移行をソフトランディングを進めていくにはどうしたらいいのだろうか。

入り込む側ではNPOとかかわる機会がまず必要だ。また、考え方の転換が求められる事もある。ビジネスや組織の中での思考・行動が染み付いていると、溶け込んでいくのはむずかしい。たとえば異なるが、老人ホームでは、トラブルを防ぐために社長経験者を同じ階に入れないという話さえある。

NPO側も適切に位置付けてリクルートする工夫がいるかもしれない。そしてこの両者に橋をかける役割がうまく仕掛けをしていくことも重要だ。退職してから急にはなく、在職中からかかわっていくことがシャカイに帰っていくいい「リハビリ」?になるだろう。サポート資源の提供システムの人材面でのとりくみが役に立っていくことを期待したい。

せんだい・みやぎNPOセンター理事 八木 充幸

内 容

市民情報都市宣言を提案、総会案内
支援センター理事長資金流用について、宮城県に質問書を提出
センターサロン、せんだいCARES、インターン紹介
らくだのブクブク・宮城県主催NPOマネジメント実践講座
事務局活動報告、会員紹介など

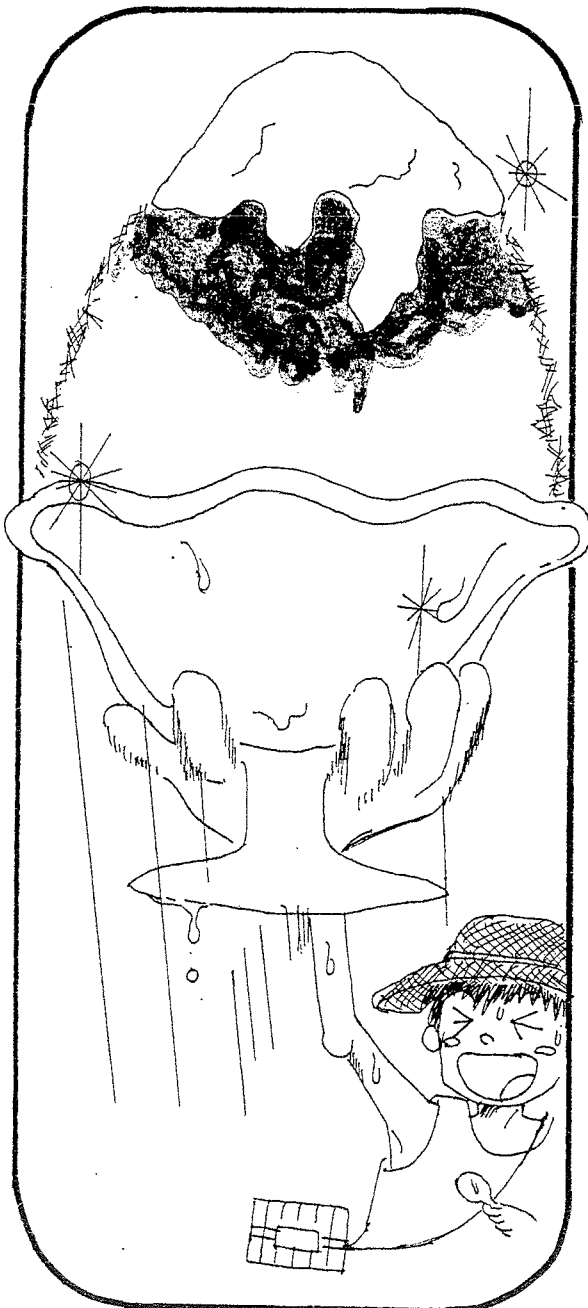


イラスト 田口暁子

「市民情報都市宣言」を提案します。

仙台における市民発の情報発信支援拠点の整備を！！

せんだい・みやぎNPOセンターでは、仙台市内の主要公共施設のスタッフとプロジェクトチーム（HONEプロ）を組み、各施設のチラシなどの取り扱い状況を調査し、その上で、公共施設が市民による情報発信の支援の場として機能するように働きかけてきた。その主旨を紹介する。

◆このままではマズイ◆

仙台市の中心部で、市民による情報発信の支援（特に、ここではラックなどを置いて、チラシを預かってもらえることを取り上げる）を行っている公共施設として、せんだいメディアテーク、エル・パーク仙台（141ビル）、仙台市市民活動サポートセンター、ネ！ットU、エル・ソーラ仙台（AER）、仙台市中央市民センターなどがあげられる。

しかし、それらの施設が十分な理解を持って、市民活動の情報発信に寄与しているかという点、心もとないところもある。

たとえば、メディアテークは、1階レストラン脇のスペース、2階図書館脇スペース、それに7階のスペースでは、それぞれ取り扱い主体と方針が違い、チラシを持ち込む市民にとっては理解しにくい状況である。

また、141ビルの5階にあるエル・パーク仙台の情報スペースは、昨年4月から財団法人仙台市男女共同参画財団が管理するスペースとなり、従来もっとも仙台市内でチラシ等の配布効果が高かったスペースであったが、男女共同参画に関連する情報を中心とした取り扱いになって、大幅にチラシ数が減った。これはストリート性のある場所での市民の情報発信にとって大きな痛手である。

現在、もっとも多種多量のチラシの配置やポスターを掲示しているのは、仙台市市民活動サポートセンターであるが（常時600点以上のチラシやニュースレターが配架・展示されている。またデータベースも4000件と豊富）、メディアテークやエル・パーク仙台と比較すると、場所のストリート性に欠けるため、幅広く市民に手渡されるには限界がある。

仙台市中央市民センターでは、サークル情報が充実しており（常時200点のチラシが提供されている）、サークル情報データベース（3000件）によって市民の問い合わせにも対応できる体制を維持しており、サポートセンターと並んで貴重な情報発信の場を提供している。

一般的にその他の公共施設では、基本的に行政情報の発信は行われているが、持ち込まれる市民発の情報の取り扱いについては、全体として統一された「市民発の情報発信支援」というコンセプトが存在せず、館長の裁量に任されていることも多い。関係部署もタテ割りの中で、まったく別途に運用されており、このままでは市民に対するインパクトも小さく、後退していく可能性もある。

実際、市民活動サポートセンターで印刷されたチラシやパンフレットは、昨年1年間で約200万枚に上っている。多くの情報が市民活動団体によって発信されているが、残念ながらこれらの情報はまだ一部の市民にしか届いていないのが現状といえる。いかにネット時代とはいえ、街中の公共的な場所でのチラシなどの配布は、重要な市民活動の情報発信支援であると思われる。

そこで私たちは、主要公共施設のスタッフとプロジェクトチーム（HONEプロ）を組み、各施設のチラシなどの取り扱い状況を調査し、その上で、公共施設が市民による情報発信の支援の場として機能するように働きかけてきた。

◆こうすればGOOD！◆

必要なことは、これらの公共施設をネットワークし、行政の担当部局のタテ割りをヨコつなぎして、市民発の情報発信支援の場としてのコンセプト

トを確立し、そのコンセプトの下で場を総合的に運用することで、市民から見たブランドを確立し、市民による情報発信力の向上に寄与することである。

具体的提案としては、まず、メディアテークの2階に、チラシラックを新設し、市民情報発信支援を充実させる。仙台市民図書館に来訪する多数の人々にとって、雑誌、新聞などと並ぶ情報収集の一環を市民発信のチラシやニュースレターが担うと想像することは楽しい。(それらの市民情報を図書館が収集するようになると、もっと楽しいのだが。)

また、エル・パーク仙台の情報取り扱い基準を、主要な男女共同参画関連情報に加えて市民活動一般に拡大する。AERのネ！ットUでは、産業振興事業団の関連で、コミュニティビジネス関連の情報

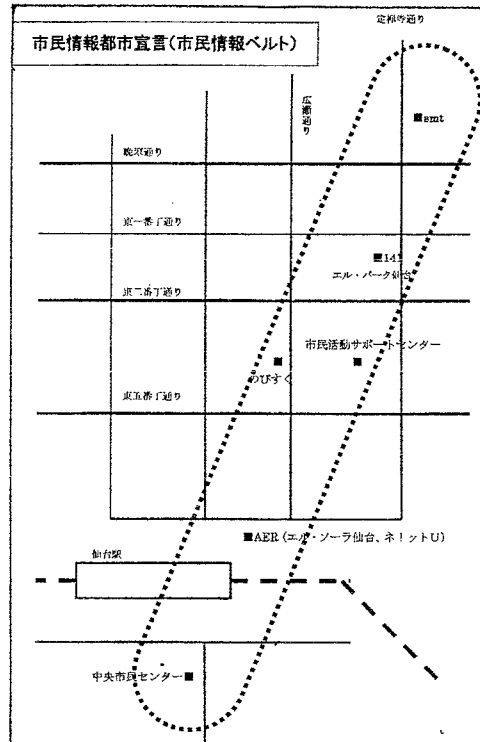
発信拠点化を検討する。中央市民センターとは発信支援を強化する。

さらには、仙台市民活動サポートセンターのチラシ管理のノウハウを、全体で共有し、標準化することで、各施設での取り扱いを支援し、市民にわかりやすく提示する。

そしてある程度準備ができたなら、全体のコンセプトを確認して、市民にアピールする。

そのような考え方については、サポートセンターの5周年記念フォーラムの中で、少し紹介させてもらった。こんな夢を実現させるため、近いうちに、提言書としてまとめて仙台市に提案したいと考えている。皆さんの意見もお聞かせください。

(加藤哲夫)



手帳に赤○チェック! せんだい・みやぎNPOセンター第6回通常総会

梅雨の頃に咲く栗の花。早くに枯れてしまう時は‘空梅雨’だとか・・・。ご自宅やご近所、散策途中で見かけた方はいらっしゃいますか？

さて、栗拾いの時期には少々早いかも知れませんが、恒例の通常総会を9月4日に開催します。今年は役員の変更期にあたります。2～4月にかけてスタッフも代わりましたので、新しい顔ぶれに会いにいらっしゃいませんか。

加えて、今回の記念セミナーでは、社会的企業のモデルとして注目を集めているビッグイシュー日本代表の佐野章二さんをお迎えします。

会員のみなさまには、8月下旬に議案を送付いたしますので、ご覧いただきましたら、総会出欠のハガキの返信を必ずお願いいたします。

(青木ユカリ)

●日時：2004年9月4日(土)
13:15～15:45(13:00開場)

●場所：情報・産業プラザ5階
セミナールーム(2)B

●記念セミナー

「(仮) ソーシャル・エンタープライズの可能性」
16:00～17:30 同会場にて
ゲスト：佐野章二氏 (有) ビッグイシュー
日本代表 (ホームレスの人だけが売ることのできる英国の雑誌『ザ・ビッグイシュー』と連携し、その日本版を制作・販売する会社)

*ソーシャル・エンタープライズ(社会的企業)：ビジネスの戦略を用いて社会的な病弊と戦う、新しい種類のダイナミックな起業家による組織。

「パートナーシップ古川」理事長資金流用 について

6月4日の河北新報、6月5日の朝日、読売など各紙で報じられたので、ご存知の方もいらっしゃると思うが、古川市の委託を受けて古川NPO支援センターなどを管理していたNPO法人パートナーシップ古川の理事長による300万円以上の資金流用が発覚した。基本的に、印鑑と通帳を理事長が一括管理していたため、半年以上も資金流用に気付かず、支払いが滞って初めて発覚したもの。驚いた理事たちが、理事会や総会を開いて対策を協議、被害額の大部分を残された理事が弁済し、理事長解任・除名、事務局長辞任、執行部を一新して、事実関係の調査と仕事の遂行を目指しているが、支援センターの管理は、古川市が直轄に改め、名前も8月から「古川市市民活動サポートセンター」と変更するという。

私たちはこの報せを大変残念に聞いた。この3年間、宮城県内5つの民間の支援センターが

ネットワークを組んで、日本財団や共同募金の援助を受け、支援センターとしての支援力向上と地域ネットワークの構築に努力を続けてきたからだ。なによりも、地域のNPOのモデルとなる運営を目指すべき支援センターがこんな不祥事を起こしては話にならない。

再発防止のためにも新体制の理事会がしっかりと原因を解明してくれることを願うが、必要なことをいくつかあげておきたい。まず、毎日の現金残高の照合を行うこと。そして、定期的な(月ごとの)通帳と現金の残高照合を行うこと。通帳と印鑑は別の人間が管理し、照合も、出金も必ず複数の人間が関与して行うこと。これらができていれば、問題の大部分は未然に防げるはずである。一人の人間の独裁を防ぐには、勇気ある複数の人間が必要である。そしてすべてはルールに基づく運営にかかっている。

(加藤哲夫)

宮城県の審査について、質問書を提出

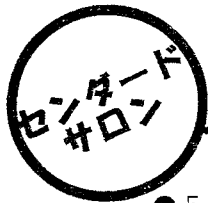
宮城県は今年、マネジメント支援関連予算を確保し、公募により企画運営団体を募集した。当センターも「NPO向けマネジメント講座」の企画に応募し、受託が決まった。ところが、5月26日に開かれた審査会で、「中間支援センター・エンパワーメント事業」に応募した2団体(NPO法人杜の伝言版ゆるると人と組織と地球のための国際研究所(三エム))の選考に過程において、審査の公正性を疑わせる事態が発生していた。そのため当センターとしては、以下の2点について事実の確認の上、宮城県に質問を送り、回答を求めている。選考に絶対的な正解はないが、だからこそ、選考過程の透明性やルールを公正さは厳しく求めらるべきだと考えている。県の回答に注目したい。

(加藤哲夫)

以下、質問書より抜粋

1. 公開ヒアリングにおいて、質問時間が守られない、競合する団体が相手のヒアリングに同席できたなど、応募団体間の公平な機会の設定がなされていないこと。
2. 「点数制(50点満点)」により審査を行い、全委員分の点数を集計し、最も点数の高かった団体を委託団体とする。なお、同点の場合は、委員の協議により、委託団体を決定する。」との審査規定を公表しているにもかかわらず、集計の結果、3点差で三エムが上回っていたものをルール通り決定せず、協議に持ち込み、点差を修正して同点にし、その上で杜の伝言版ゆるるとに委託を決定したとのこと。

以上の2点について、まず事実かどうか、早急に明らかにしてください。もし、事実であるとすれば、常識的に考えて、審査の公正さを疑わせるに足るものであると言わざるを得ず、由々しき事態です。これでは、今後の宮城県のNPO促進策の信頼性を失うことにもなりかねません。すみやかにその原因を明らかにした上で、適正な対策をとり、回答を公表されることを要望します。



●5/26には「NPO新スタッフ交流会～顔が見える関係づくりのきっかけ～」と題し、ここ1年でNPOのスタッフになった人を対象に開催しました。当センターの新スタッフを含め、4団体から13名が参加。まず、自分の好きなものだけを書き出す「偏愛マップ」というコミュニケーションツールを使い自己紹介。お互いの共通点を見つけやすかったようで、なごやかな雰囲気づくりができました。その後、チラシやパンフレットだけではわからない現場での活動の様子や、スタッフの動きなど、それぞれの団体の活動紹介をしました。NPOで働き始めた悩みやとまどいをお互いに話し、アドバイスし合うことで、悩みを解決する機会にもなったようです。また、自分の団体のことをわかりやすく他者に伝える（特に当センタースタッフにとっては、せ・みとサポセンのちがひ）研修にもなりました。サロンをきっかけに、顔が見える関係を確実につくることができました。（中津涼子）

●6/24には「人とペットのよりよい関係づくりのためにNPOができること」を開催しました。動物の保護活動や動物行政への提言などを行っている5団体をゲストに迎え、活動の状況や課題、今後の目標などについてお話を伺いました。

動物に関する活動といっても様々で、内容も多様です。先の見えない保護活動の取組みの事例、アニマルセラピーを生かした独自のフリースクール活動の紹介、そして動物をとりまく現状についての様々な角度からの勉強会の事例など、熱のこもった報告がありました。あらためて、人とペットがよりよい関係であるために乗り越えなくてはならない課題がたくさんあることを確認しました。同時に団体同志のネットワークの可能性や市民の関心の高さを知ることができたのも大きな収穫です。また、それぞれの団体が動物に関わる専門家や関連機関との連携を深めていくことで、より多面的な活動を展開していけるのではないかとこの感想を持ちました。（眞壁さおり）



●ことしも動き出した、「せんだいCARES(ケアーズ)」

NPOと企業と行政の協働で、100万人の市民にアピールしよう。

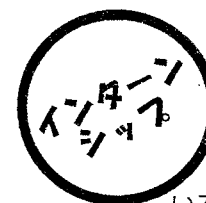
昨年、大好評だった「せんだいCARES」は、もう準備が始まっています。今年は、企業の方たちによる実行委員会が主催者に。期間は、10月30日(土)から12月4日(土)までの36日間。オープニングのセレモニーは、せんだいメディアテーク1階で開催。

開催資金は、行政（仙台市・宮城県）からの補助金と、企業からの協力費とNPOの参加費。企業・市民・NPOが資金面でも一緒になってこのキャンペーンを実施することになりました。

8月20日には、実行委員会主催の「NPO向け説明会」を開催。また、10月はじめには、出来上がったパンフレットの配布準備作業を企業人とNPOと一緒にやる予定です。このとき、告知チラシの同封も可能ですから、チラシはお早めにご準備を。参加方法など詳しい情報は、チラシやHPでご確認いただけます。「せんだいCARES 2004」のお問い合わせは、担当 紅邑・林まで。

<去年の参加者の声から>

NPO：新しい会員やボランティア、参加者が増えた。今まで以上の問い合わせがあった。 企業：社員に喜ばれた。得意先との会話が弾んだ。いろんなNPOを知ることができた。 市民：楽しそうなパンフレットで読みたくなった。知りたい情報がいっぱいあって、便利。



●インターンシップ 奨励プログラム、スタート！

「NPOの現場を市民社会の小さな学校に」というサブ・タイトルがついているこのプログラムは、NPO法人市民社会創造ファンドが実施し、当センターは今年からインターンの受け入れ先となりました。大学・大学院で学ぶ若者が、NPOでのインターン活動を通じて、社会的な視野と志を持つ「市民社会人」として成長することを願ってもうけられたもので、公募により4人の応募があり、審査の結果、宮城大学1年の林真紀さんと宮城教育大学4年の前田和幸さんに決まりました。林さんには、「せんだいCARES2004」を前田さんには、NPO情報ライブラリーのデータベース作成や登録団体へのヒアリングをお願いします。来年6月までの1年間、この2人をよろしくをお願いします。（紅邑晶子）

BENYのはみ出しエッセイ ◆らくだのブック ◆ vol.11

都会の縁台

常務理事・事務局長 紅邑 晶子

オープンカフェといわれるお店が、仙台でも増えてきています。どんなに日中が暑くても、仙台の夏の夜はからりと涼しく、クーラーを止めて、扇風機と天然の風を入れながらお店を開いている居酒屋さんもあります。オープンカフェのおしゃれな感じとは大分違いますが、賑やかなお客さんたちの様子が外まで溢れていて、屋台のような人間味が感じられます。

さて、先日の夜中のことです。ようやく仕事を終えたので、事務所の向かいにあるワインのお店にちょっと寄り道することに。ところが店内にいるはずのマスターが、お店の前のベンチで舗道にテーブルを出してお客さんとワインを飲んでいました。一緒にどうぞと誘われて、見知らぬお客さんのお隣に。通りがかりの人たちは不思議そうに眺めていきま

す。そのうち、ちょうど知り合いの方が通りかかって参加、さらには見知らぬ人も「この雰囲気、いいですね」なんて言って加わり、たちまち7・8人の路上ワインバーになってしまいました。

仙台市の市民活動サポートセンターも、先日丸5周年を迎えました。ここでも、交流サロンというオープンスペースが大活躍。違う団体同士がここで偶然出会って、協力し合うというドラマがいくつも誕生しています。

通りすがりに気軽に声を掛け合える関係が、ほとんどなくなってきている都会の真中で、昔でいう路上に出された縁台のようなこんな空間は、いま、最も必要とされている場所なのかもしれないと、「イルカツアー」企画のおじさんの話を聞きながら、思うわたしでした。

今年、当センターでは宮城県が主催する「NPO向けマネジメント研修」事業に応募し、企画・実施することになりました。この講座は、9～11月にかけて主に県内3市（古川市、石巻市、白石市）で5つのテーマ（A～E）で講座を行うもので、合計のべ510人の受講生を募集します。

宮城県が主催し、全県域を対象にしたマネジメント講座は2年ぶりです。地域や社会の中でNPOを取り巻く状況も刻々と変化してきますから、この変化に際した効果的な講座を実施するために、現在内容を検討しているところです。

県民であれば、どの会場の受講も可能です。先着順です。お早めにお申込みください。チラシをご希望の方は、みやぎNPOプラザ、当センターまでご連絡ください。

（遠藤智木）

宮城県内
3市で
計15回
開催!

NPOマネジメント実践講座
主催：宮城県
企画・実施：せんだい・みやぎNPOセンター

◆NPOマネジメント実践講座2004 開催概要◆

開催時期：2004年9月～11月 開催地：古川市、石巻市、白石市（県内3地域）
宮城県民であれば、どの会場にでもお申込みが可能です。

- A NPOの可能性と団体運営の基礎
- B 広報とコミュニケーション
- C 人材開発（スタッフ、ボランティア、理事）
- D NPO法人の会計と税務
- E 成果を導く事業計画と資金調達

事務局活動報告 (2004. 5/20~7/20)

活動
報告

■事務局/自主事業関連

- ・ サポート資源提供システム運営委員会 (5/24)
- ・ 事業・運営会議 (第83回: 5/25 第84回: 6/8 第85回: 6/22 第86回: 7/6)
- ・ センター会議 (5/26・6/30)
- ・ みんな発行 (5/26)
- ・ センターサロン「NPO新スタッフ交流会」「人とペットのよりよい関係づくりのためにNPOができること」(5/26 6/24 遠藤・中津・真壁)
- ・ インターンシップ面接 (6/3)
- ・ 仙台市市民活動サポートセンター全体ミーティング (6/2・9・16・23・7/7・14)
- ・ せんたいCARES2004実行委員会 (6/7・7/15)
- ・ 事業企画戦略会議 (5/20・6/17・7/8)
- ・ 理事会 (第59回: 6/21 第60回: 7/20)
- ・ スタッフ面談 (6/24・29・7/1・5)
- ・ ろうきんファンド書類審査 (7/15)

■NPO/企業関連

- ・ 職員研修/主催: 河北新報 (5/21 加藤、紅邑)
- ・ NPOフォーラムみやぎ「NPO公開ヒアリング」/主催: 民主党宮城県連NPO委員会 (5/22 紅邑)
- ・ 平成16年度東北地区協議会・研修会/主催: 日青連東北地区協議会、日専連仙台青年会 (5/27 加藤)
- ・ 全国民間ボランティア・市民活動推進者企画戦略会議 (6/5・6 青木)
- ・ 講演会/主催: (特) いしのまきNPOセンター (6/5 紅邑)
- ・ 講演/主催: (社)「小さな親切」運動宮城県本部 (6/10 紅邑)
- ・ NPOキャパシティービルディングプログラム検討会/主催: (特) 日本NPOセンター (6/10 紅邑)
- ・ MISA総会 (6/10 加藤)
- ・ NPO支援センター初任者研修会/主催: (特) 日本NPOセンター (6/11・12 紅邑、小松、真壁)
- ・ (特) 市民社会創造ファンド (6/19 紅邑)
- ・ NIRA・コミュニティ再生研究班ヒアリング調査/主催: 東北開発研究センター (6/25・26 加藤)
- ・ (特) 日本NPOセンター理事会 (6/28 加藤)
- ・ 災害ボランティアコーディネーター研修会/主催: (社福) 宮城県社会福祉協議会、(特) みやぎ災害救援ボランティアセンター (6/28・29 青木、遠藤智)
- ・ 部会研修会/主催: 仙台市I.V. ネットワーク (7/9 紅邑)
- ・ 自助グループのためのマネジメント講座/主催: (特) 宮城県断酒会 (7/10 加藤)

- ・ NPOキャパシティービルディングプログラム検討会/主催: (特) 日本NPOセンター (7/12 紅邑)
- ・ 理事研修/主催: (特) あかねグループ (7/14 紅邑)
- ・ わくわく祭り/主催: (特) わくわくネット・はくい (7/19 紅邑)

■自治体関連

- ・ 宮城県NPO促進委員会 (5/21・7/9 加藤)
- ・ 「アレマ隊活動オープン会場」「アレマ隊員養成講座」「まち美化ネットワーク世話人会」(5/23・7/3・20 加藤・紅邑)
- ・ 社の都の市民環境教育・学習推進会議「設立総会」「設立記念フォーラム」(5/24・7/17 遠藤智)
- ・ 福島市市民活動サポートセンター検討懇談会 (5/25・6/4・22 加藤)
- ・ 平成16年度監督者研修。「NPO (市民との協働について)」/主催: 宮城県市町村職員研修所 (5/26 加藤)
- ・ 仙台市都市計画審議会 (5/27 紅邑)
- ・ 仙台市市民公益活動促進委員会 (5/27 紅邑)
- ・ 協働推進ワーキンググループ/仙台市民局 (5/27・6/8・7/6 加藤、紅邑)
- ・ 「徳島県社会貢献活動の促進に関する条例」普及・啓発イベント/主催: 徳島県 (5/28 加藤)
- ・ 仙台市環境審議会 (5/31 遠藤智)
- ・ 平成16年度課長補佐級研修「教養講話」/主催: 山形県職員研修所 (6/2 紅邑)
- ・ 環境社会実験のコンパ審査 (6/5 遠藤智)
- ・ みやぎボランティア総合センター運営委員会/主催: 社会福祉法人宮城県社会福祉協議会 (6/10 遠藤智)
- ・ わくわく市民活動ゼミナール「NPOの本質とその経営とは」/主催: 財団法人淡海文化振興財団 (6/12 加藤)
- ・ みやぎ青年育成推進事業「みやぎ地球市民すくすく計画2004」市民プロデューサー養成講座/主催: 宮城県環境生活部 (6/19・20・26 紅邑・青木・佐藤)
- ・ 若林区中央市民センター「中学生版・広報紙作り」/主催: 仙台市教育委員会 (6/19・26 中津)
- ・ 仙台市市民活動サポートセンター5周年記念フォーラム (7/3)
- ・ 仙台市環境市民会議 (7/5 遠藤智)
- ・ みやぎNPOプラザ運営協議会 (7/7 加藤)
- ・ 佐賀市職員研修 (7/12・13・14 加藤)
- ・ 仙台市社会教育委員 (7/13 紅邑)

■相談、ヒアリング関連

- ・ 経営相談 (6/15 加藤)

サポート・ご協力 ありがとうございます

●平成16年度会員（敬称略・順不同、2004/5/21-7/20）

（新規・正会員） 田代久美

（継続・正会員・団体） MIYAGI子どもネットワーク、（特）まちづくり政策フォーラム、青森アップル会、（特）いしのみきNPOセンター、角田市アジアの農民と手をつなぐ会、（特）生活リハビリクラブきらら、（特）ソキウスせんだい、（特）あかねグループ、（特）でんでん宮城いきいきネットワーク、（特）住民互助福祉団体ささえ愛山元、仙台ダルク、くりこま高原自然学校、（特）みやぎセキュリティNPO、（特）あぐりねっと21、（特）起業支援ネット、（特）宮城県断酒会

（継続・正会員・個人） 黒澤学、高鷹厚、青木ユカリ、稲垣美麻、江口徹治、愛知絢子、三澤宏嘉、荒井勝子、渡辺博之、小島妙子、遊佐さゆり、新川達郎、日向則子、藤原範典、佐藤寛治、佐藤元吾、池田一義、八木充幸、横山英子

（継続・正会員・企業） ハリウコミュニケーションズ(株)

（継続・正会員・他） 仙台都市総合研究機構

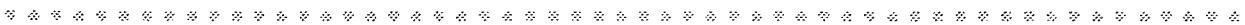
（継続・準会員）津志田達雄、クリーンアップ蒲生、鈴木素雄、（特）シャロームの会、（特）メディア・イコール、（特）グループゆう、沖永哲哉、今田忠、上田由美子、ふくしま地域づくりの会、浅野裕子、遠藤邦昭、（特）仙台インターネット推進研究会、野外ぐるりん友の会、市川力、松尾敏行、（特）塩釜市体育協会、宮野学、大泉太由子、日本たばこ産業(株)東北コーポレートセンター、（有）平野印刷所

●企業・団体協力（五十音順、敬称略）

岡元タイル(事務局スペースを社会貢献価格にて) 富士ゼロックス(カラーコピー機を社会貢献価格にて)

●ご寄付ありがとうございます。

ラッキーコアフル、宮城労働金庫共済会



◆ただ今、会員入会・継続キャンペーン実施中！◆

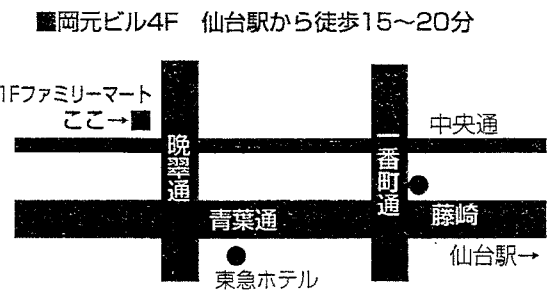
NPO正会員には、ノートブックPCが、正会員（新規・継続）には、電動ハイブリット自転車が当たります。今すぐご応募を！詳しくはチラシをご覧ください。 becoming a member, please contact the office.

総会 9/4 (土)
13:15~15:45
仙台駅前アエル5階

Eメールをお知らせ下さい

当センターでは、会員の皆さんへのサービスとして、Eメールによる情報提供を実施しております。Eメールを送受信できる環境にある会員の方々に、まだメールアドレスを事務局にお伝えいただけていない方は、ぜひご連絡下さい。 minmin@minmin.org

せんだい・みやぎNPOセンター
〒980-0804 仙台市青葉区大町2-6-27 岡元ビル4F
tel 022-264-1281 fax 022-264-1209
E-mail minmin@minmin.org
http://www.minmin.org/
会費・寄付はこちらにどうぞ！
郵便振替：02260-3-16325
加入者：せんだい・みやぎNPOセンター



みんみん編集後記

■VOICE OF NPO PROJECTをご存知ですか？この2003年度分の成果物がまもなく完成します。「ワークブック・市民のチカラ水」「NPO広報カルテ」「まるごとHypertext Book2003」の3部作。どうかおたのしみに。(紅邑) ■田舎者の私が言うのもなんですが、仙台は大都市とはいえ、コンパクトな街だなと感じます。そのコンパクトさゆえに、さまざまな施設を渡り歩くことも出来るのです。さあ皆さん、まずは手始めに本町2丁目サポートセンターへいらっしやい。(小松) ■つい先日「クチコミコミュニティマーケティング」という本を読んだ。女性の特性を活かしてサービス・商品を磨き、その共感者を募り広げる。クチコミを広げるツールとしてWEBやメールは欠かせないとか。NPOもかなり参考になるので、ご一読をすすめます！(遠藤ち) ●末筆になりますが、この度水害にあわれた方々へ、スタッフ一同よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧を願っております。